

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 75 人

② 算数 75 人

5 留意事項

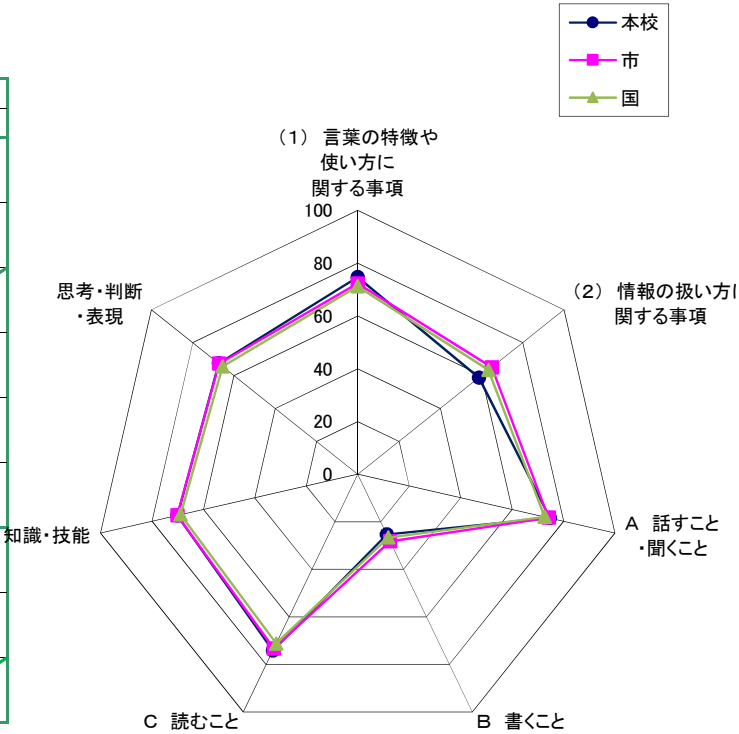
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.7	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	58.7	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	74.7	74.2	72.6
	B 書くこと	25.3	28.2	26.7
	C 読むこと	74.2	73.3	71.2
観点	知識・技能	70.1	70.2	68.9
	思考・判断・表現	67.4	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

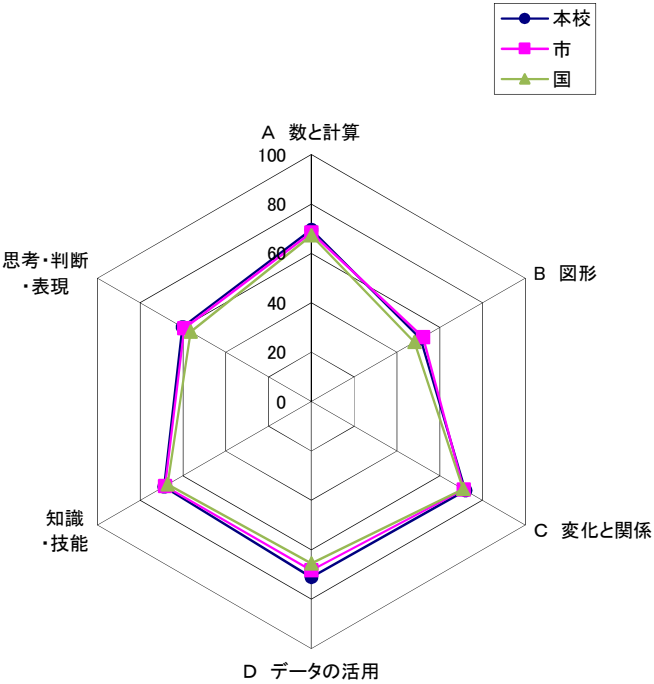
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は74.7%で全国の平均より高い。 ○漢字を文章中で正しく使うことができている。例文を通して漢字を覚えさせたり、家庭学習等で同音異義語の確認を行ったりした成果と考えられる。 ●文章の内容の特徴を捉えて説明することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章の内容を要約してまとめたり、筆者の主張を一言で表したりする活動を意識的に行っていく。また、読み取り活動の中で、情景描写や文章の要点となるキーワードを押さえるなどして、表現の工夫を読み取ることができるようにする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は58.7%で全国の平均より低い。 ●原因と結果や情報の関連性など、情報と情報との関係について理解したり、語句と語句の関連性を見付け、それらを結び付けたりすることに課題が見られる。	・説明文の中で、情報を仲間分けしたり、語句と語句の関連性を見付けて整理したりする活動を増やしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は74.7%で全国の平均よりやや高い。 ○与えられた条件に合わせて自分の考えをまとめることができている。日頃から言語活動を意識した授業づくりに努め、自分の意見や考えを伝え合う活動を行っている成果であると考えられる。 ●話し手の意図や聞きたいことの中心を捉えることに対して課題が見られる。	・話し合い活動において、自分の意見と友達の意見を比べながら聞いたり、互いの考えをまとめたりすることで、伝えたいことの中心を明確に示せるようにする。
B 書くこと	平均正答率は25.3%で全国の平均より低い。 ●○グラフを正しく読み取り、そこから分かることを簡潔にまとめることに対しては課題が見られるが、無回答率は5.3%と全国の平均より低い。日頃から、文章を書いたりまとめたりする活動を教科横断的に取り組んでいる成果であると考えられる。	・算数や社会等、グラフから読み取れる内容について学習する機会を多く設定するなど、教科横断的な授業づくりに努めていく。
C 読むこと	平均正答率は74.2%で全国の平均よりやや高い。 ○自分の考えを文章でまとめる力が付いてきている。無回答率が4%と全国の平均より低いことから、文章を構成する力が身に付いていると考えられる。 ●資料の中から、目的に応じて必要な内容を選び取ることに対して課題が見られる。	・調べ学習や読書活動において、調べる内容や課題など、目的に応じて本や文章を選ぶことができるよう指導する。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.6	68.4	67.3
	B 図形	51.0	52.2	48.2
	C 測定			
	D 変化と関係	72.0	71.2	70.9
	E データの活用	71.1	68.3	65.5
観点	知識・技能	68.9	68.4	67.2
	思考・判断・表現	60.2	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は69.6%で、全国の平均よりやや高い。 ○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることはよくできている。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題が見られる。	・問題文の内容を正確に捉えられるよう繰り返し指導を行うとともに、今までの知識から工夫して答えを導き出す活動を多く取り入れ、思考力や表現力を伸ばしていく。
B 図形	平均正答率は51%で、全国の平均よりやや高い。 ○正方形の意味や性質についてよく理解している。 ●外角と内角の関係など、三角形の性質の理解において課題が見られる。	・さまざまな図形の作図を繰り返し行うことで、角度や辺の長さなど、図形の構成要素についての理解に努める。 ・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。 ・一人一台端末を用いて実際にプログラミングを行い、視覚的に捉えながら、図形の性質や定義についての理解を深めていく。
C 変化と関係	平均正答率は72%で、全国の平均よりやや高い。 ○●伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り知りたい数を求めることはよくできているが、知りたい数量の大きさについて式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。	・比例についての仕組みを復習するとともに、なぜそのような考えるかなど、求め方や式の意味を説明する学習活動を意図的に設定し、思考力の向上を目指す。
D データの活用	平均正答率は71.1%で、全国の平均より高い。 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできている。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題が見られる。	・社会や理科など、統計資料や実験データを扱う単元との関連も図りながら、教科横断的な指導を行い、グラフを読み取る力や活用する力を育む。 ・表やグラフから読み取れることを伝え合う活動を取り入れることで、多面的に資料を読み取る力の向上を目指す。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対する肯定割合は93.3%で、全国の平均と比べて9.8ポイント高かった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童は73.3%で全国平均より23.4ポイント高く、「どちらかといえば、当てはまる」を加えた肯定割合も、全国平均と比べて7.5ポイント高い97.3%という結果が得られた。日々の生活の中で、児童の様子をよく見て良いところを伝えたり、教育相談等で児童の話をじっくり聞いたりしたことで、「認められている」「自分にはよいところがある」と感じる児童が多くなったのではないかと考えられる。今後も児童の気持ちに寄り添い、良いところを伸ばしていけるような環境づくりや支援に努めていきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いに対する肯定割合は94.7%で、全国平均を12.9ポイント上回っている。また、昨年度よりも5.5ポイント上回っており、学校課題である「自分の思いを豊かに表現し、主体的に学び合う児童の育成」を目指し、言語活動の内容や指導方法を工夫してきた成果が表れていると考えられる。今後は、さらに話合いの質の向上が図れるように指導していきたい。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の問いに対する肯定割合は86.7%で、全国平均を16ポイント上回っており、昨年度よりも11ポイント伸びている。宿題や自主学習などの家庭学習に関して、繰り返し指導したり励ましたりしてきたことにより、児童の意識や取組が向上していると思われる。中学校進学に向け、自分に必要な学習に対して自主的・計画的に取り組めるように指導を続けていきたい。

○●「読書は好きですか」の問いに対する肯定割合は80.0%で、全国の平均と比べて8.2ポイント高かったが、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の問いで「1時間以上」と回答した児童は16%で、全国平均より2.5ポイント下回った。また、「全くしない」と回答した児童も、全国平均よりは低いものの9.3%いることが分かった。さらに、「新聞を読んでいますか」の問いに対して「週に1回以上」と回答した児童は10.7%で、全国平均よりも1.9ポイント下回った。児童が活字にふれる機会を意図的に増やし、活字離れを防いだり読解力を高めたりできるよう努めていきたい。

○●国語の学習に対して、「大切だと思いますか」「授業の内容はよく分かりますか」「将来、社会に出たときに役立つと思いますか」などの問いに対しての肯定割合は、全国平均と比べて約4～7ポイント上回っているが、「国語の勉強は好きですか」の問いに対する肯定割合は56%で、全国平均を5.5ポイント下回った。語彙力を豊かにしたり話合いの基礎を学んだりする国語の学習は、他の教科の基盤にもなるので、楽しみながら学習に取り組めるよう指導を工夫していきたい。

宇都宮市立陽南小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	・少人数、習熟度別など、単元や活動に応じて、TTを効果的に活用した個に応じた指導を行う。 ・朝の学習の時間にAI型学習ドリルの活用も含めた国語・算数の学習を行ったり、授業において漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったりするなど、学習内容の確実な定着を図る。	国語の「読むこと」、算数の「数と計算」において、全国平均を上回る結果となった。国語の「書くこと」においては、全国平均をやや下回る結果となった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
話合い活動において、自分と友達との考えの違いを意識してまとめたり、伝え合ったりすることについて、肯定的に捉えている児童が多いが、文章に書くことに対して苦手意識を感じている児童が多い。	児童の自己表現力を高める言語活動の工夫	・自分の考えを書く学習を意図的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。また、その基本となる漢字や言葉の正しい表記や文法なども併せて指導する。 ・少人数での話合い活動を通して、自分の考えを交流することにより、考えに根拠をもてるようにしたり、全体で発表する際の抵抗を減らしたりして、自信をもって意見を発表できるようにする。